

ブドウ「巨峰」はアブシジン液剤を果房散布することで着色が向上する

ブドウ「巨峰」は着色始期にアブシジン酸液剤 1000ppm を果房に散布することで、果実品質を損なうことなく着色向上ができる。

農業研究センター果樹研究所落葉果樹研究室 (担当者: 湯田健太)

研究のねらい

ブドウ「巨峰」をはじめとした黒系ブドウは、近年、着色期に夜温が下がらない年が多く、着色不良が問題となっている。そこで、着色始期のアブシジン酸液剤(アブサップ液剤)果房散布による着色向上効果を明らかにする。

研究の成果

1. 着色始期にアブシジン酸液剤 1000ppm を散布することで着色促進効果が見られる(表 1)。
2. 入手可能で容易な電動スプレー、ハンドスプレーでの散布でも着色のバラツキは少なく、特に電動スプレーは着色向上効果が十分に認められる(表 1、写真 1、2、3)。
3. 電動スプレー、ハンドスプレーでの散布による果粉溶脱はみられるが、大きく外観を損ねるものではない。
4. 慣行区は摘粒終了後袋掛け、対照区を含めたその他の区では着色始期に袋掛けを行ったが、慣行区と着色始期までの約 2 週間では病害虫の発生はみられない。

成果の活用面・留意点

1. 今回の成果は屋根掛け栽培での試験成果であり、露地栽培では袋掛けが遅れることによる病害虫の発生に注意が必要である。
2. アブシジン酸液剤の着色促進に対する登録内容は「巨峰」・「ピオーネ」で、1000ppm(100倍)の 2~10ml/果房、着色始期~着色開始期 2 週間後までに散布可能。露地栽培では降雨が心配される日の使用を控え、なるべく調整当日に使用する。
2. 散布方法は果房の 3 方向からまんべんなく行い、約 5ml/房で散布した結果である。
3. ハンドスプレーは手首への負担があるが、電動スプレーは負担が少なく扱いやすい。
4. 着色のムラをなくすためには細霧噴霧が必要であるため、2021 年はスプレーガンで散布したが、コンプレッサー・発電機が必要であり、実用的ではない。

表1 アブシジン酸液剤(アブサップ液剤)の散布が果実品質に及ぼす影響(2021、2022)

年度・処理区		一房重 (g)	一粒重 (g)	果皮色 (C. C.)	糖度 (Brix)	酸含量 (g/100ml)	病害虫 発生率(%)
2021	スプレーガン(3方向)	408	12.2	8.8a	17.6a	0.52a	
	慣行区(摘粒後袋掛け・無散布)	394	11.9	6.8b	18.1a	0.57b	
2022	電動噴霧器(3方向)	474	13.8	8.7a	17.3a	0.48a	0
	ハンドスプレー(3方向)	481	13.9	7.7b	17.5a	0.49a	0
	無散布区(着色始期袋掛け)	490	13.7	5.6c	17.6a	0.52a	0
	慣行区(摘粒後袋掛け・無散布)	496	14.4	5.7c	17.9a	0.51a	0

注1) 同列異符号間はTukeyの検定により5%水準で有意差あり

注2) 慣行区は従来通り摘粒後に袋掛け、アブシジン酸液剤散布区、無散布区は着色始期に袋掛け

注3) 6月30日に1000ppmを散布



写真1 処理区ごとの果実着色程度



写真2 電動スプレー(約2000円)



写真3 ハンドスプレー(約200円)